

メッセージアウトライン

ローマ15：30～33「力を尽くして祈る」

[30-32]「兄弟たち。私たちの主イエス・キリストによって、また、御霊の愛によって切にお願いします。私のために、私とともに力を尽くして神に祈ってください。私がユダヤにいる不信仰な人々から救い出され、またエルサレムに対する私の奉仕が受け入れられるものとなりますように。その結果として、神のみこころにより、喜びをもってあなたがたのところへ行き、あなたがたの中で、ともにいこいを得ることができますように」

パウロは多くの困難と危険を予想しており、それゆえ、その祈りの要請も切実であった。まず彼は「主イエス・キリストによって」願う。これは共に主イエスを信じる兄弟姉妹としてお願いしますと言う意味。主にある兄弟姉妹は祈りにおいても助け合う必要がある。次に「御霊の愛によって切に」願う。これは、御霊によって与えられる愛、御霊の実として私たちが持つようになる神の愛、下心のない、うそ偽りのない愛からあなたがたにお願いしますと言う意味。このようにして彼は「私とともに力を尽くして神に祈ってください」願う。ちょうどヤコブがヤボクの渡しで神と格闘したように。→創世記32:24～30 神の前に力ある祈りとは時間をかけ、力を尽くして、熱心に、切実に祈る祈りではないか。パウロが危険が待ち受けているエルサレム行きについてローマの教会の兄弟姉妹たちに願ったのはこのような祈りであった。彼の具体的な祈りの課題は①ユダヤにいる不信仰な人々から救い出されること。「ユダヤ」とはエルサレムを中心とするイスラエル南部のこと。②援助の献金がエルサレムの兄弟姉妹たちに受け入れられるように。エルサレム教会には律法的な背景を持つユダヤ人たちが多くおり、異邦人からの援助を拒否する可能性もあった。③エルサレムに対する奉仕を終えて、無事に「あなたがたのところ」ローマへ行き、あなたがたの中で、ともにいこいを得ることができるように。それも「神のみこころにより」、「喜びをもって」である。「ともにいこいを得る」とはローマのクリスチャンたちとの交わりにおけるいこいと充足の時を意味している。

初代教会においてパウロほど広範囲にわたって伝道のために活躍した人はいない。彼はその信仰と賜物によって多くの信徒を励ますことができた。しかし、また彼は自らの弱さと多くの困難を知っていたがゆえに他のクリスチャンたちの祈りによる支えを切に願ったのである。

[33]「どうか、平和の神が、あなたがたすべてとともにいてくださいますように。アーメン」

これはローマのクリスチャンたちに対するパウロの祝福の祈り。「平和の神」とは平和を与えてくださる神と言う意味。パウロにとってクリスチャンたちの間の平和こそ最も望んでいるもの。キリストによって与えられる霊的一致と愛の交わりによる平和は神だけがお与えになることができるもの。それゆえ、パウロはこのように祝福を祈るのである。